

14. 21-574



1200501162575

24
574

昭和三年度
業務功程報告書



始



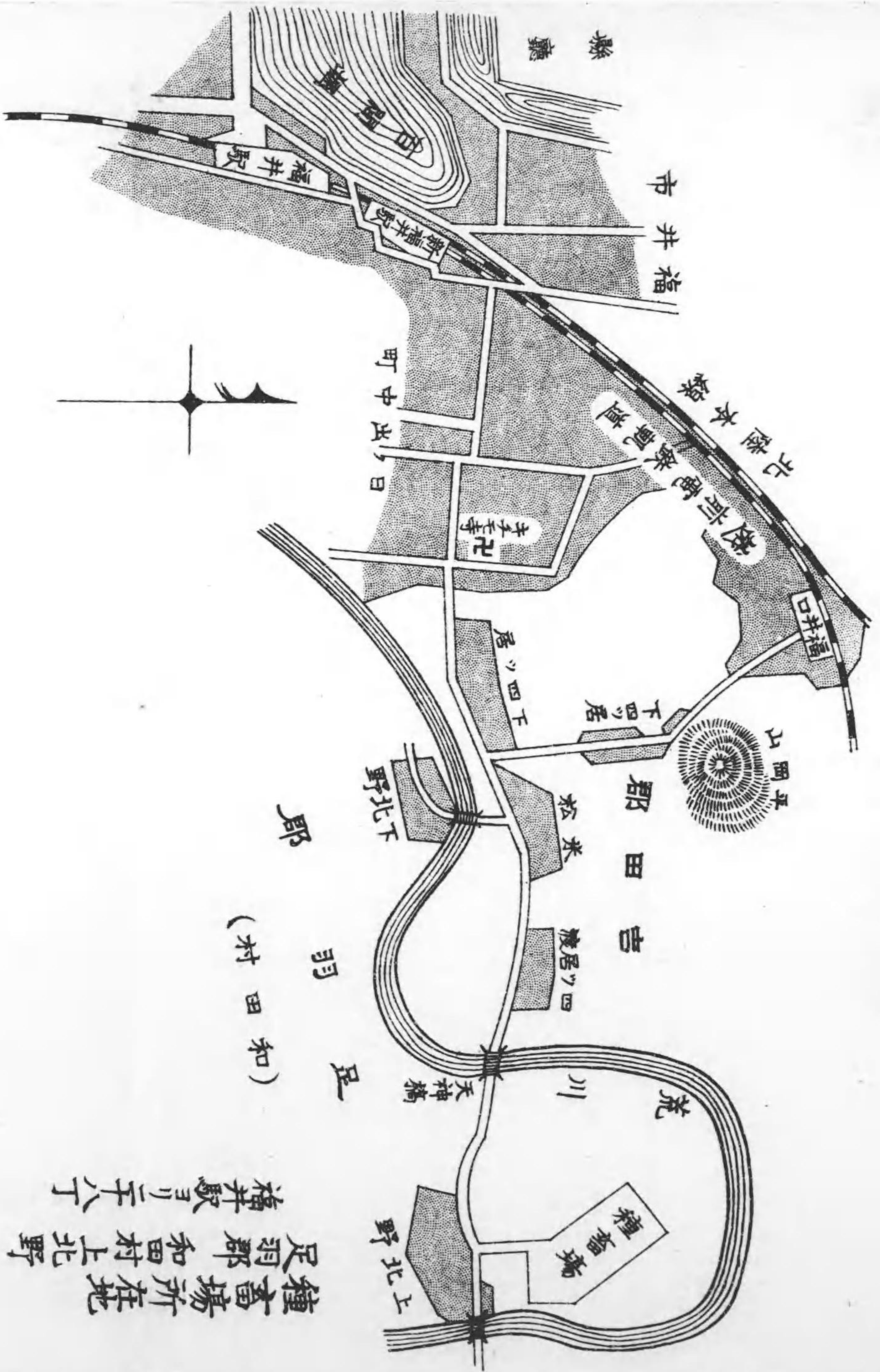
昭和貳年度

業務功程報告書

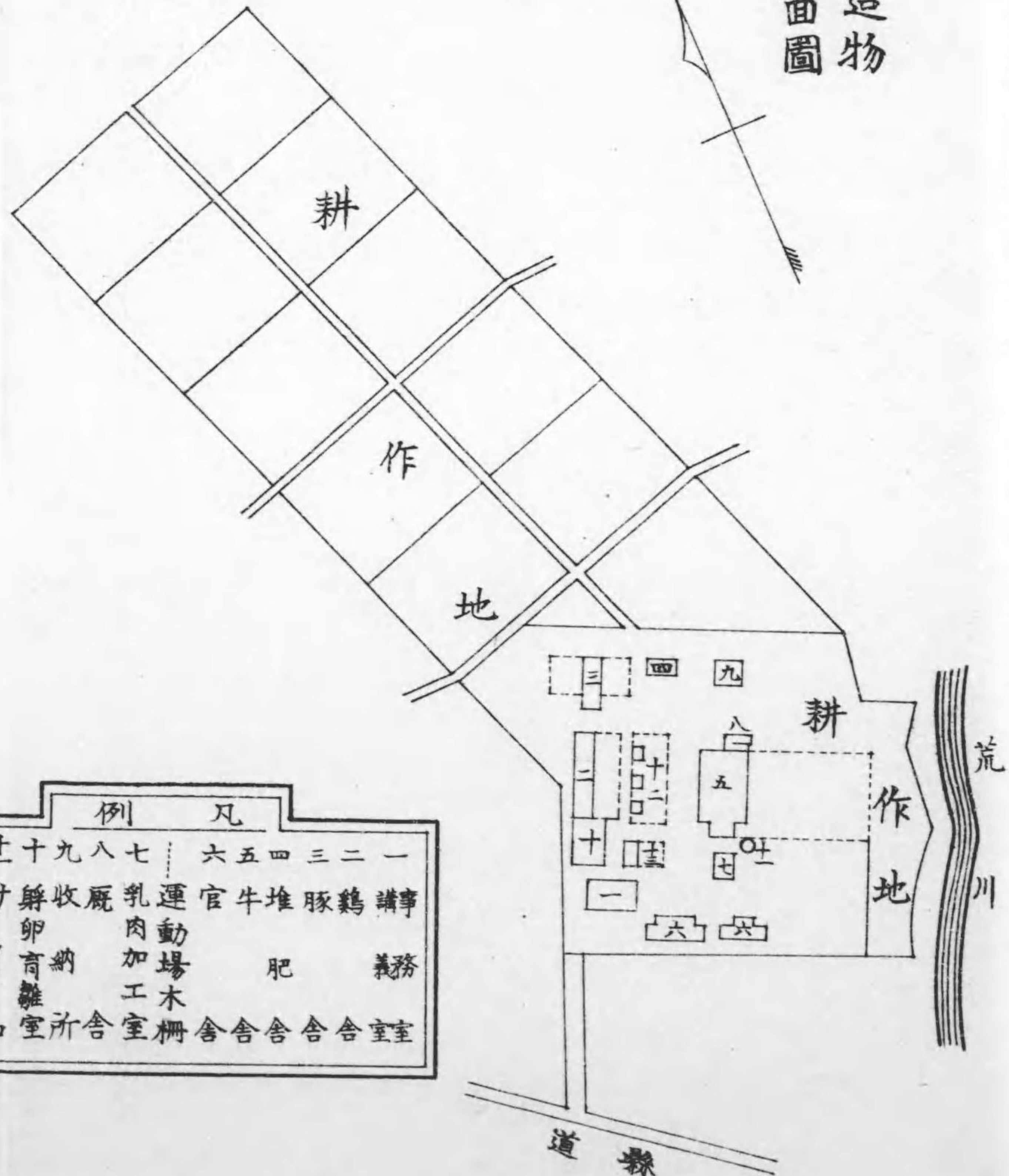
福井縣立種畜場

頁	行數	誤	正
一四	四行目表中摘要中	竹田五右エ門	村田五右エ門
二二	八行目發育中止	一〇、九六	二〇、九六
二四	二行目十三段	一〇、八九	一〇、七九
"	四行目九段	一四、四八	一四、四八
"	十二行目十四段	一〇、八〇	一〇、八〇
二五	一行目九段	一四、四八	一四、四八
二六	十四行三段	三五、一〇	三五、一〇
三五	十行	自由逍遙運動	自由逍遙運動
三七	四行目六段	七月九廿日	七月廿九日
"	六行目一段	育雛養苦	育雛用養苦
三九	十三行目四段	所要人員	所要延人員
五二	五行目	間隔ヲ	間隔ヲ
五三	九行目	牝牛及生産	牝牛及其生産
五五	三行目	業務殆業	業務始業
五七	一行目四段	六同時	同六時

種畜場在野地畧圖



種畜場營造物
及耕作地平面圖



例		凡	
十一	十二	一	二
講務室	雞舍	豬舍	牛舍
三	四	五	六
堆肥舍	牛舍	官場	運動場
七	八	九	十
乳肉加工室	厩舍	收納所	解卵室
十一	十二	十三	十四
汁イ	コニ	第二畜舎	畜舎

圖說

昭和二年度 福井縣立種畜場業務功程報告書目次

第一章 總說

一、沿革.....一

二、位置.....二

三、用地.....二

四、氣象.....三

五、營造物.....三

六、經費.....五

七、事業ノ概況.....八

八、事務ノ概況.....八

九、職員.....九

一〇、職員及傭員ノ移動.....九

一一、職員出張.....一〇

一二、參觀人員.....一一

一三、質疑應答.....一一

一四、文書發收件數.....一二

第二章 種畜種禽

一、畜牛.....一二



一、畜牛現在表.....一三

二、畜牛移動表.....一四

三、種牝牛種付成績及分娩表.....一四

四、種牝牛餘勢種付成績表.....一五

五、豚.....一五

六、豚現在表.....一五

七、種牝豚.....一五

八、種牝豚.....一六

九、仔豚.....一六

一〇、種付成績表.....一六

一一、年度內生產仔豚異動表.....一八

一二、種豚拂下表.....一九

一三、最近三ヶ年間種豚拂下比較表.....二〇

一四、仔豚發育成績表.....二〇

一五、雞.....二一

一六、種雞現在表.....二一

一七、人工孵化成績表.....二二

一八、產卵調查表.....二三



二、種鶏拂下表……………二五

ホ、最近四ヶ年間種鶏拂下比較表……………二六

ハ、種卵拂下表……………二六

ト、最近四ヶ年間種卵拂下比較表……………二七

チ、産卵能力……………二八

第三章 飼養管理……………三〇

一、飼養……………三〇

イ、畜牛飼料例……………三〇

ロ、犢人工哺乳……………三一

ハ、種豚飼料例……………三二

ニ、種鶏飼料例……………三三

ホ、飼料ノ購買及消費……………三三

二、管理……………三五

第四章 乳肉加工試験……………三六

一、乳加工……………三六

二、肉加工……………三七

第五章 飼料作物栽培……………三六

一、飼料作物栽培成績表……………三七

二、牧草收穫表……………三七

三、飼料作物栽培努力調査表……………三六

イ、青刈大豆……………三六

ロ、玉蜀黍……………三六

ハ、蕪菁……………三六

四、飼料作物耕作反當所要人員表……………四〇

第六章 指導獎勵……………四一

一、質疑應答講習講話……………四一

附 錄……………四二

福井縣立種畜場職制……………四三

福井縣立種畜場處務規程……………四四

福井縣立種畜場處務細則……………四五

種豚種禽種卵拂下規程……………四九

種牡牛種付規程……………五一

備員心得……………五二

種牡牛馬表……………五七

昭和二年度福井縣立種畜場業務功程報告書

第一章 總 說

一 沿 革

本縣畜産ノ起原ハ文献ノ徵スヘキモノナク茫トシテ其由來ヲ知ルニ由ナシト雖氣候中和ニシテ地味豊饒加之山河ノ配置宜シキヲ得テ菟草ノ繁茂夥シキカ故ニ昔日ヨリ養畜ノ業行ハレタルヤヲ想起セシムルモノアリ

明治ノ初年土産牛ノ体格矮小品位劣悪ナルヲ慨スル人士等ニヨリテ短角種及ヒ「ホルスタイン」種牡牛ノ購入ヲナシ銳意畜牛ノ改良ニ努メタリト雖機未タ熟セサルニヤ一進一退成績ノ見ルヘキモノナクシテ徒ラニ悲境ヲ辿ルニ過キサリキ

明治三十三年以來縣費ヲ以テ「ホルスタイン、フリーシアン」種牡牛ヲ購入シテ乳用種ノ改良ニ努ムルト共ニ一面ニハ又使役ヲ專ラトスル地方ニ對シテハ在來種牛ノ特質美點ヲ尊重シテ改良増殖ヲ圖レリ爾來幾星霜回ヲ重ネテ實驗シ乳用種牛ニアリテハ「ホルスタイン、フリーシアン」種ヲ以テ最モ氣候風土ニ適應シ役用牛ニアリテハ改良和種ヲ其用途ニ充ツルヲ以テ最モ良策ナルモノトシ愈々方針ヲ定メテ邁進セリ

養鶏養豚ノ業ニ至リテハ佛教ノ盛ンナル關係上飼養尠ク他府縣ニ比シ著シキ遜色アリタルモ縣當局ハ之レカ飼養ノ獎勵ニ努メタル結果漸次其ノ數ヲ増シ數倍ノ増加ヲ算スルニ至レリ

既往ノ狀態ハ大略以上ノ如クナルモ時勢ノ趨移ハ益々乳肉ノ需要ヲ加ヘ加之畜力ノ利用及副業的家畜家禽ノ飼養ハ農業經濟上最モ適切ナルカ故ニ進テ其ノ模範ヲ示シ實地指導ノ機關タラシムルト共ニ種畜、種禽ノ配布ヲ普カラシメントシテ茲ニ當場ノ設立ヲ企圖スルニ至レリ

設立ニ要セシ經費豫算ハ之レヲ大正十一年度通常縣會ニ提出シタルニ時恰モ縣費多端ノ折柄ナリシニモ拘ラ

ス最モ意義アル施設トシテ熱誠ナル協賛ヲ得即チ十一年度ヨリ三ヶ年繼續ヲ以テ新設スルコトトシ農商務省
又十一年三月設立ノ認可ヲ與ヘラレタリ

當場設置費豫算左ノ如シ
一金五萬參百六拾九圓

種畜場設置費

內譯

金壹萬五千參百貳拾壹圓 大正十一年度支出
金壹萬八千九百五拾七圓 大正十二年度支出
金壹萬六千九拾壹圓 大正十三年度支出
大正八年四月農商務省令第十五號道廳府縣種畜場補助金交付規則ニヨリ交付セラレタル金額左ノ如シ
金壹千參百五拾四圓 大正十一年度補助額
金九百四拾圓 大正十二年度補助額
金壹千四百參拾五圓 大正十三年度補助額

昭和二年養鶏部ノ擴張費ニ對シ農林省指令畜第四八八九三號ニヨリ補助金ノ交付ヲ受ケタル金額六百九拾圓ナ
リ

二位 置

縣廳及福井驛ヨリ東方約三十町ニ位シ道路ハ縣道ニシテ極メラ平坦且ツ荒川ト稱スル河川ハ本場ヲ圍繞シ福
井市ノ中央ヲ貫通スル足羽川ニ通スル等能ク舟車ノ便ヲ有セリ土地高燥豐饒ニシテ從來主トシテ蔬菜ノ栽培
ヲ行ヒタル畑地ト梨園ヲ開拓シテ設置セシモノニシテ水質良好丸山ノ丘陵ハ指願ノ間ニ展望シ遙カニ望メハ
加賀白山ノ秀嶺雲煙ノ間ニ横タハリ望涯ノ風光雄大明眉ナルノ地ナリトス

三用 地

主トシテ集約的經營法ニヨリ研究ヲ行ヒ且ツ模範ヲ示サムトセリ而シテ用地利用ノ區分ヲ示セハ左ノ如シ

總面積 三町五反八畝十六步四合

內譯

建物敷地 壹千四百三十五坪四合
牛豚鶏舍附屬運動場 六百三坪
牧草栽培地 壹町三反一畝七步
耕作地 壹町四反步
通路及耕作路 五百八十一坪

四氣 象

夏季ハ風位概ネ北風又ハ南風ニシテ攝氏二十八度ヨリ三十二、三度ノ間ヲ昇降ス冬季ハ風位概ネ北西ニシテ
氣温ハ攝氏〇、五度ヨリ氷点下四度ノ間ニアリテ初霜ハ十一月初メヨリ晩霜ハ四月上旬ニ及ヒ降雪ハ十一月
下旬ナルモ積雪ニ至ラスシテ多クハ十二月又ハ一月ニ入リテ尺餘ニ及フヲ普通トセシモ本年ハ一月下旬ヨリ
二月ニ亘リ約四尺以上ノ積雪ヲ見タリ

五營 造 物

營造物種類	個數	構 造	坪 數	建築セシ年度
牛 舍	一	木造瓦葺平屋	八、〇	大正十一年度
豚 舍	一	木造亞鉛葺平屋	三、二	同 十一年度
堆 肥 舍	一	木造亞鉛葺平屋	一〇、〇	同 十一年度

牛運動場木柵	延長五十二間	丸太造 高サ四尺五寸	三〇、〇	同	上
豚運動場木柵	延長三十五間	板圍高サ四尺	三七、二五	同	十一年度
井	四	盤拔 堀井戸三		同	十一年度
事務所及講義室	一	木造瓦葺二階建	五三、〇	同	十一年度
鶏舎	一	木造瓦葺平屋	三七、〇	同	十一年度
鶏舎所屬運動場	延長八十間	金網張	七五、〇	同	十二年
舎	二棟四戸分	木造瓦葺平屋	六、〇	同	十二年
孵卵育雛室	一	同上	一八、〇	同	十二年
育雛舎附屬運動場	延長十間半	金網張	一五、〇	同	十三年
收納所	一	木造亞鉛葺二階建	二〇、〇	同	十三年
厩舎	一	木造瓦葺平屋	五、〇	同	十三年
乳肉加工室	一	木造亞鉛葺平屋	一三、〇	同	十三年
サイロ	一	コンクリート建		同	十三年
コロニー式鶏舎	三	木造亞鉛葺平屋	九、〇	同	十二年

四

右運動場柵	延長三十六間	金網張	四五、〇	同	上
第二育雛舎	一	木造亞鉛葺平屋	八、〇	同	上
右運動場柵	延長十九間	金網張	一三、〇	同	昭和二年度

六 經 費
入 (經常部)

目	節	豫算額	決算額
牛種付料		三、五、〇〇〇	二、〇、〇〇〇
吏員職員納付金		一〇、〇〇〇	四、八、一五〇
不用品賣拂代		三、九三、五〇〇	二、八五、七六〇
收穫物製作		四、三、五〇〇	三、八八五、四六〇
品賣拂代		四、三、五〇〇	四、四、三、七〇
計			

目	節	豫算額	決算額
俸給		五、一八〇、〇〇〇	四、八二五、八八〇

五

修繕費	牛舍床下張	100,000	100,000
	雜費	150,000	150,000
	牛耕傳習費	20,850	20,850
	牽付費	60,000	2,500
	借地料	30,000	7,300
	圖書印刷費	1,007,650	837,460
	通信運搬費	60,000	69,350
	宿直賄料	50,000	28,650
	飼料費	91,500	91,500
	種苗費	3,213,000	3,603,210
	肥料費	10,000	36,180
	種卵購入費	10,000	10,000
	種豚購入費	150,000	78,300
		50,000	50,000

場費	雜給		
消耗品費	技師給	597,000	597,000
備品費	技師旅費	733,000	733,000
	主事補給	6,588,000	6,195,840
惠與	技師給	139,000	657,000
雇人料	主事補給	195,600	174,450
小使給	技師給	39,400	293,350
農夫給	技師給	95,600	883,200
牧夫給	技師給	1,808,400	1,605,600
技師主事補旅費	技師給	710,000	675,940
	技師給	326,000	326,000
	技師給	4,406,000	4,605,550
	技師給	480,000	504,000
	技師給	2,700,000	2,311,880
	技師給	2,000,000	2,000,000

計	小破修繕費	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
		一六、二〇八、〇〇〇	一五、七七七、二七〇

七 事業ノ概況

本年度ニ於テ施行セシ事業ノ概況左ノ如シ

- 一、ホルスタイン種ノ純粹蕃殖
- 二、種牡牛ノ餘勢種付
- 三、役肉用牛ノ蕃殖
- 四、種豚ノ蕃殖育成
- 五、種鶏孵化育成
- 六、候補種牛及犢ノ育成
- 七、候補種牝牛、種豚、種鶏種卵ノ拂下
- 八、乳肉ノ加工
- 九、飼料作物ノ栽培
- 一〇、養鶏部ノ擴張
- 一一、畜産ニ關スル講習講話、實地指導並質疑應答

八 事務ノ概況
イ 職員

任命年月日	職名	氏名
-------	----	----

大正十一年四月一日	場長 地方技師	祐 泉 登
大正十四年四月二十二日	農林技師	薦 谷 壽 亮
昭和二年五月二十五日	同	龍 田 泉
昭和二年十二月二十二日	同	古 莊 逸 郎
大正十二年四月一日	農林主事補	西 島 作 次 郎

ロ 備員

採用年月日	備員名	氏名
大正十五年八月五日 <small>農手ヨリ轉ス</small>	牧 手	寺 下 九 平
大正十五年八月十六日	牧 手	森 谷 宏
昭和二年十一月三十日	牧 手	伊 藤 政 名
昭和二年十二月四日	牧 手	佐 野 伊 登 志
大正十四年五月二十四日	小 使	近 藤 巧

ハ 職員及備員ノ異動

任名備入年月日	退職解備年月日	職備名	氏名
---------	---------	-----	----

昭和二年五月二十五日	昭和二年五月二十五日	農林技手	室谷正治
昭和二年十一月十九日	昭和二年十一月十九日	農林技手	三好保夫
昭和二年十二月二十二日		農林技手	龍田泉
昭和二年四月二十日	昭和二年四月二十日	牧手	堀佐一郎
昭和二年六月三十日	昭和二年六月三十日	農手	高村近
昭和二年八月十日	昭和二年八月十日	牧手	柏野良藏
昭和二年十一月三十日		牧手	伊藤政名
昭和二年十二月四日		牧手	佐野伊登志

二職員出張
イ縣内

郡市別	調査		實地指導		講習講話		經理事務	
	回数	日数	回数	日数	回数	日数	回数	日数
民羽郡	六	六	七	七				
吉田郡	六	六	六	六				

郡市別	調査		實地指導		講習講話		經理事務	
	回数	日数	回数	日数	回数	日数	回数	日数
坂井郡	一	二	一五	二二	三	四	一	二
大野郡	一	二	一〇	二五	一	三	一	二
今立郡			八	八	一	一	一	一
丹生郡			一	一				一
南條郡			六	七	一	二	一	一
敦賀郡			八	二	一	一	一	二
三方郡			五	九	一	二		
遠敷郡	一	三	三	八	一	二	一	四
大飯郡			一	一				
計	二	五	六九	一〇六	九	一五	七	一三

會議用務 一回 六日間
 研究調査用務 二回 十五日間
 本參觀人員

區分	官公吏	農及畜産業	學生生徒	計
----	-----	-------	------	---

人員 七四_人 二六三_人 二七一_人 六〇八_人

へ質疑 應答 文書ニヨル質疑應答ハ僅少ナリシモ參觀ト質疑トヲ兼ネテ來場セルモノ多數ニシテ總テ懇切丁寧ヲ旨トシ回答ヲ與ヘタリ

ト 文書發收件數

區分	發	送	收
件數	一、七二〇件		一、八四七件

第二章 種畜種禽

一 畜 牛

本縣產牛ノ普及改善ヲ圖ランガ爲メ乳用種ニアリテハ「ホルスタイン」、フリートシアン」種役用種ニアリテハ改良和種ヲ繋養蕃殖セリ生産牝犢ハ縣内ニ拂下ケテ改良ノ原種トナシ牝犢ハ育成ノ上種用ニ供用セリ年度末現在ノ畜牛數ヲ示セバ左ノ如シ

イ 畜牛現在表 (年度末現在)

名稱	種類	性	生年月	毛色	產地	血統
第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス	ホルスタイン	牝	大正八年八月	黑白斑	北海道	父サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アーチーセー、ローシヨハナ、アイダロツタセコンド號
第一	ホルスタイン	牝	大正十二年八月	黑白斑	岩手縣	父ロードヨヘム號、母第四アンチエー、シヤープ號
第二	ホルスタイン	牝	大正十二年四月	黑白斑	岩手縣	父ロードヨヘム號、母第五ヘンドリカー號
第三	ホルスタイン	牝	大正十二年十月	黑白斑	北海道	父サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アーチーセー、ローシヨハナ、アイダロツタセコンド號
第四	ホルスタイン	牝	大正十二年九月	黑白斑	北海道	父サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母ネザーランドコランサ、オートムスビー
出雲	改良和種	牝	大正十三年十二月	黒	島根縣	不明
出雲二世	改良和種	牝	昭和二年二月	黒	當場	父不明、母出雲
出雲三世	改良和種	牝	昭和二年十月	黑白斑	當場	父第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アイアマンチエー
出雲四世	改良和種	牝	昭和三年二月	黑白斑	當場	父第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アイアマンチエー
出雲五世	改良和種	牝	昭和三年三月	黒	當場	父島若、母出雲
出雲六世	改良和種	牝	昭和三年三月	黑白斑	當場	父第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母第三ネザーランド、コランサ、オートムスビー

鳥	若	改良和種	牝	大正十四年	黒	島根縣	不明
第一	ホルスタイン	牝	大正十二年八月	黑白斑	岩手縣	父ロードヨヘム號、母第四アンチエー、シヤープ號	
第二	ホルスタイン	牝	大正十二年四月	黑白斑	岩手縣	父ロードヨヘム號、母第五ヘンドリカー號	
第三	ホルスタイン	牝	大正十二年十月	黑白斑	北海道	父サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アーチーセー、ローシヨハナ、アイダロツタセコンド號	
第四	ホルスタイン	牝	大正十二年九月	黑白斑	北海道	父サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母ネザーランドコランサ、オートムスビー	
出雲	改良和種	牝	大正十三年十二月	黒	島根縣	不明	
出雲二世	改良和種	牝	昭和二年二月	黒	當場	父不明、母出雲	
出雲三世	改良和種	牝	昭和二年十月	黑白斑	當場	父第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アイアマンチエー	
出雲四世	改良和種	牝	昭和三年二月	黑白斑	當場	父第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母アイアマンチエー	
出雲五世	改良和種	牝	昭和三年三月	黒	當場	父島若、母出雲	
出雲六世	改良和種	牝	昭和三年三月	黑白斑	當場	父第二十八サージョハナ、ピーターチエー、マシューデス、母第三ネザーランド、コランサ、オートムスビー	

備考 年度内飼養延日數ハ種牝牛七百三十二日種牝牛二千百十五日犢牛二千二百三十九日合計五千八十六日

畜牛移動表

名	種	種	性	生	毛	産	移	摘	要
稱	類	類	性	年月	色	地	動月日		
第四アリタ	同	ホルスタイン	牝	大正十二年十二月	白黒斑	岩手縣	昭和三年三月十日	農牛トシニ福井市竹田五右衛門ニ貳百八拾壹圓六拾錢ニテ賣却	
アリダ二世	同	同	牝	大正十四年七月	黒白斑	當場	昭和三年三月九日	吉田郡圓山東村黒川文藏ニ八百貳拾圓賣却	
スシ一二世	同	同	牝	大正十五年五月	黒白斑	當場	昭和二年十二月廿日	種牝牛トシテ大野郡畜産組合ヘ貸付	
デイアマンチエ一世	同	同	牝	大正十五年六月	黒白斑	當場	昭和二年十二月廿日	種牝牛トシテ足羽郡畜産組合ヘ貸付	
ヒルダ三世	同	同	牝	大正十五年七月	白黒斑	當場	昭和三年三月廿八日	種牝牛トシテ今立郡畜産組合ヘ貸付	
フイーマン三世	同	同	牝	昭和二年三月	白黒斑	當場	昭和三年三月九日	福井市木原才兵エニ八百八圓ニテ賣却	

種牝牛種付成績及分娩表

區分	昭和二年		昭和元年	
	供用種牝牛	種付年月	供用種牝牛	種付年月
デイアマンチエ	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	昭和二年十二月	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	大正十五年十月
フイーマン	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	昭和二年四月	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	大正十五年四月
右同	同	昭和三年三月	同	昭和二年一月

第三スシーセコンドオースビー	右同	昭和二年十月	姓	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	大正十五年十月	昭和二年七月	牝
第三ネザールランドコランサオームスビー	右同	昭和二年五月	昭和三十二年三月分娩	右同	大正十五年十二月	不妊	不妊
出雲	島若號	昭和二年五月	昭和三十二年三月分娩	右同	大正十五年十二月	不妊	不妊
アリダ二世	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	昭和二年十月	昭和三十二年三月分娩	第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	昭和二年三月	不妊	不妊

種牝牛餘勢種付成績表

供用種牝牛	本年度内		同		前年		本年	
	種付頭數	回数	受胎數	胎數	種付	計	種付	計
第二十八サージュヨハナ、ヒターチエーマシーデス	三〇	五〇	一八	六	四	一〇	一	四

二豚

縣下養豚業ノ普及發達ヲ圖ランカタメ純粹蕃殖ヲ行ヒ之ヲ拂下クルコトトセリ又近親蕃殖ノ弊害ヲ除キ血液ノ更新ヲナサンカタメ新種二頭ヲ購入セリ

一豚現在表

(年度末現在)

種	類	名	號	生	産	地	購	飼
種	類	名	號	年月	地	地	入年月	養延日數
右同	ヨークシャー種	ヒストン、チャンピオン	四	大正十五年四月	岩崎農園	大正十五年九月	三六六日	
右同	ミツクオアアルビー	ヒストン、チャンピオン	四	大正十五年四月	岩崎農園	大正十五年九月	三六六日	

年度内種牝豚飼養延日數七百三十二トス

二種 牝豚

種類	名	號	生年月	産地	購入年月	飼養延日數
ヨークシャー種	葉	櫻	大正十二年九月	農林省畜産試験場	大正十三年	三六六日
右同	若	葉	同 十三年	右同	大正十三年	同
右同	神	奈川	同 十三年	神奈川縣久保田種豚場	同 十三年	同
右同	千	葉	同 十一年	農林省畜産試験場	同 十三年	同
右同	ヒストンロバー	ブライドナー	同 十五年	右同	同 十五年	同
右同	レットヂエウエル		同 十五年	千葉縣岩崎農園	同 十五年	同
右同	やまがらをかだ		昭和二年	福井縣岡田養豚場	昭和二年	一二九日
右同	てふをかだ		同 三年	右同	同 三年	五日

年度内種牝豚飼養延日數二千三百三十日

三種 豚

種類	名	號	産次	生年月	性	頭數
ヨークシャー種	若葉號ノ仔		第五産	昭和二年六月九日	牝	一
同	千葉號ノ仔		第六産	昭和二年六月十九日	牝	二
同	レットヂエウエルノ仔		第一産	昭和二年九月三十日	牝	一
同	若葉號ノ仔		第六産	昭和二年十二月廿五日	牝	一
同	葉櫻號ノ仔		第七産	昭和二年十二月六日	牝	一
同	千葉號ノ仔		第七産	昭和二年十二月九日	牝	一
同	レットヂエウエルノ仔		第二産	昭和三年三月廿一日	牝	三
同	神奈川號ノ仔		第四産	昭和三年三月廿一日	牝	四
計						九七

年度内仔豚飼養延日數八千三十八トス

種付成績表

種類	名	號	供用種牝豚	種付回数	種付年月日	分娩年月日	産仔數		摘要
							牝	計	
ヨークシャ	若葉號	千	同種	一	昭和二年二月十六日	昭和二年六月九日	四	六一〇	
		同	同種	一	同 二年八月五日	同 二年十二月廿五日	三	四七	
		同	ヒストンロバー	一	同 二年三月十八日	妊娠中			

若葉號	種牝豚名	區分	回数	分娩	性	頭數	拂下	疾病其他ニヨル減數	年度末現在	計	八年度内生産仔豚 異動表	
											同	同
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	ヒストンロバ ー イ ド ナ 一 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	ウエル 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	神奈川 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	葉櫻 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	千葉 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	ヒストンロバ ー イ ド ナ 一 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	ウエル 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	神奈川 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	葉櫻 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	千葉 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	ヒストンロバ ー イ ド ナ 一 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	ウエル 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	神奈川 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	葉櫻 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	千葉 號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

種牝豚名	區分	回数	分娩	性	頭數	拂下	疾病其他ニヨル減數	年度末現在	計
千葉號	千葉號	二	二	牝	八〇	四四		四六	二〇
葉櫻號	葉櫻號	二	二	牝	二五	六一		四一	八〇
神奈川號	神奈川號	二	二	牝	七九	三三		四三	二五
レツトヂエウエル號	レツトヂエウエル號	二	二	牝	〇八	二二		四三	二五
ヒストンロバ一號	ヒストンロバ一號	二	二	牝	七六	三六		四一	二〇
プライドナー一號	プライドナー一號	二	二	牝	七六	三六		四一	二〇
計	計	二	二	牝	二四五	一七二		一七二	五四

二種豚拂下表

區分	牝	拂下	頭數	計	牝	拂下	價格	計
吉田郡	三	一	四	三九,〇〇〇	一三,〇〇〇	五三,〇〇〇	五三,〇〇〇	
坂井郡	三	一	四	二七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三七,〇〇〇	三七,〇〇〇	
今立郡	八	五	一三	一六八,〇〇〇	七六,〇〇〇	二四四,〇〇〇	二四四,〇〇〇	
福井市	四	二	六	三六,〇〇〇	一八,〇〇〇	五四,〇〇〇	五四,〇〇〇	
計	一八	二二	三九	二七〇,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	三七八,〇〇〇	三七八,〇〇〇	

備考 普通ハ生後六十日以後ニ於テ拂下ヲ行フコトトセリ發育不良其他ノ事故ニヨリ種豚ノ資格ナキモ

ノハ廢豚トナシ市價ヲ以テ拂下ヲ行ヒ一部ハ肥臘セシメ加工用ニ供スルコトトセリ
 本 最近三ヶ年間種豚拂下比較表

郡市別	大正四年度		昭和元年度		昭和二年度	
	拂下頭數	拂下價格	拂下頭數	拂下價格	拂下頭數	拂下價格
足羽郡	10	81,000	22	182,300	1	5,000
吉田郡			4	30,000	4	51,000
坂井郡	3	26,000	2	18,000	16	128,000
今立郡	5	19,000	14	139,360	13	244,600
南條郡	4	31,000	13	89,000	1	
丹生郡	2	26,000	1		1	
敦賀郡	5	49,000	2	14,000	1	
三方郡	2	10,000	1		1	
遠敷郡	7	75,000	1		1	
福井市	1		1	9,000	6	54,000
計	38	388,000	57	481,660	39	478,600

仔豚發育成績表

日數	一頭平均體量	一頭平均増量	各期一日一頭ノ平均増量		分娩時ヨリ一日一頭平均増量	各仔豚ノ最重最輕ノ差
			分娩後七日目	分娩後十五日目		
分娩時	336.9					8.5
分娩後七日目	495.0	158.1	26.4		26.4	11.0
同 十五日目	804.0	309.0	34.3		31.1	57.5
同 三十日目	1,675.0	871.0	58.0		44.6	60.0
同 六十日目	3,125.5	1,437.5	40.8		46.3	80.5

備考 本表ハ當場生産仔豚九十一頭ニ付キ調査セシモノニシテ六十日目以後ニ拂下クルコトトセリ

三 鶏

鶏ノ種類ハ本縣ニ於テハ以下ニ掲クル三種ヲ以テ適當ト認メ之レヲ飼育シ普及ニ努メツツアリ而シテ本年度ニ於テ養鶏部ヲ多少擴張増築セシト雖拂下出願ノ數量全部ニ亘リテ應シ得サルニヨリ改良増殖ノ原種トナサンカタメ特ニ優良鶏ヲ選擇シテ少數ツツ不偏的ニ分配スルコト、セリ

イ 種雞現在表

區分	大正十三年鶏		大正十四年鶏		昭和元年度		昭和二年度		合計
	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	
單冠白色	1	1	1	1	2	2	2	2	110
レグホーン種	1	1	1	1	2	2	2	2	64
名古屋種	1	1	1	1	2	2	2	2	29

合計	横斑 ブロッツ			名古 屋種			單冠 白色 レグ ホーン		
	延羽數	産卵數	平均産卵數	延羽數	産卵數	平均産卵數	延羽數	産卵數	平均産卵數
産卵數 一、四六〇、四三六、一、四〇一、三〇一、三四九	延羽數 二、四〇三、四三三、三三〇、〇〇一、〇一〇、三九四、五七二、七九、七、三、四、三六、八、一二三、七〇一、一〇	平均産卵數 一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九	産卵數 一、九六、一八〇、一七〇、一七〇、二二〇、二三四、二四〇、二七〇、三〇〇、二九〇、三二〇、三二〇	延羽數 二、四〇三、四三三、三三〇、〇〇一、〇一〇、三九四、五七二、七九、七、三、四、三六、八、一二三、七〇一、一〇	産卵數 一、九六、一八〇、一七〇、一七〇、二二〇、二三四、二四〇、二七〇、三〇〇、二九〇、三二〇、三二〇	平均産卵數 一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九	産卵數 一、九六、一八〇、一七〇、一七〇、二二〇、二三四、二四〇、二七〇、三〇〇、二九〇、三二〇、三二〇	延羽數 二、四〇三、四三三、三三〇、〇〇一、〇一〇、三九四、五七二、七九、七、三、四、三六、八、一二三、七〇一、一〇	平均産卵數 一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九
一、四六〇、四三六、一、四〇一、三〇一、三四九	二、四〇三、四三三、三三〇、〇〇一、〇一〇、三九四、五七二、七九、七、三、四、三六、八、一二三、七〇一、一〇	一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九	一、九六、一八〇、一七〇、一七〇、二二〇、二三四、二四〇、二七〇、三〇〇、二九〇、三二〇、三二〇	二、四〇三、四三三、三三〇、〇〇一、〇一〇、三九四、五七二、七九、七、三、四、三六、八、一二三、七〇一、一〇	一、九六、一八〇、一七〇、一七〇、二二〇、二三四、二四〇、二七〇、三〇〇、二九〇、三二〇、三二〇	一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九	一、九六、一八〇、一七〇、一七〇、二二〇、二三四、二四〇、二七〇、三〇〇、二九〇、三二〇、三二〇	二、四〇三、四三三、三三〇、〇〇一、〇一〇、三九四、五七二、七九、七、三、四、三六、八、一二三、七〇一、一〇	一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九

備考 前年度ノ各種類一羽一ヶ月平均産卵數ノ比較左表ノ如シ

産卵率	六〇、七八五、八、五五九、八七五〇、六〇四四、七二五、二八二四、五五二五、一〇三八、六九三五、七〇五〇、九一六一、六三	平均一ヶ月	一、八、一三三、八、一六二、七、九六二、五、六九一、三、八五七、七、五八七、六二〇、五二二、〇〇一、〇六二、五、〇六一、九、一一	平均一ヶ月	一、八、一三三、八、一六二、七、九六二、五、六九一、三、八五七、七、五八七、六二〇、五二二、〇〇一、〇六二、五、〇六一、九、一一
平均産卵數	一、四一、一四、五三、〇〇、〇〇二、四、〇〇、三九	平均一ヶ月	一、八、一三三、八、一六二、七、九六二、五、六九一、三、八五七、七、五八七、六二〇、五二二、〇〇一、〇六二、五、〇六一、九、一一	平均一ヶ月	一、八、一三三、八、一六二、七、九六二、五、六九一、三、八五七、七、五八七、六二〇、五二二、〇〇一、〇六二、五、〇六一、九、一一

比較	昭和元年度		昭和二年度		平均
	白色レグホーン種	名古屋種	白色レグホーン種	名古屋種	
増	一六三、七九	一〇〇、二八	一七二、三〇	一三八、〇九	一四一、四八
増	八、五二	三七、八二	八、五二	三七、八二	二二、二七

二種鶏拂下表

區分	白色レグホーン		横斑ブリマス		名古		人員	羽數
	人員	羽數	人員	羽數	人員	羽數		
足羽郡	五	三六	一	一	一	一	五	三六
吉田郡	一	一五	一	一	一	一	二	二五
坂井郡	一	三〇	一	一	一	一	一	三〇
大野郡	三	六七	一	四	一	一	五	七七
今立郡	一三	三〇七	二	三	七	六七	三三	三七七

種別	最近四ヶ年間種鶏拂下比較表			
	大正十三年度	大正十四年度	昭和元年度	昭和二年度
丹生郡	二	一	一	二
敦賀郡	六	一	二	九
福井市	四	一	一	四
計	三五	四	二	五〇
	五四八	九	九七	六五四

種別	最近四ヶ年間種鶏拂下比較表			
	大正十三年度	大正十四年度	昭和元年度	昭和二年度
單冠白色レグホーン種	五	一〇九	六七六	五四八
名古屋種	一	二	一八五	九七
横斑ブリマスコック種	三	一九	七七	九
計	二七	一五二	九三六	六五四

備考 大正十三年度ノ拂下數ノ僅少ナリシハ開設當時ニテ拂下出願者アリシモ拂下ノ種鶏無カリシニヨ

種卵拂下表

區分	單冠白色レグホーン種 人員類數	名古屋種 人員類數	横斑ブリマスコック種 人員類數	計
足羽郡	一〇	一	一	一二
	一五三	一五	一	一六八

種別	最近四ヶ年間種卵拂下比較表			
	大正十三年度	大正十四年度	昭和元年度	昭和二年度
吉田郡	七	一	一	九
坂井郡	一七	五	五	二七
大野郡	五	五	一	一〇
今立郡	六	一	一	八
丹生郡	六	一	一	六
南條郡	一	一	一	一
敦賀郡	四	一	一	六
三方郡	二	三	一	五
遠敷郡	一	一	一	一
大飯郡	一	一	一	一
福井市	四	一	二	六
計	六三	一八	一〇	九二
	一、三六六	一八五	一三三	一、七〇一

種名	初産卵後滿一ケ年 産卵數	同上總重量	初産卵時ノ体重
單冠白色 レクホーン種	二六七	七〇七	四三九
名古屋種	三三〇	八四	一一五
横斑ブリマス ロツク種	四〇	二〇九	八二
計	五二七	一、〇〇〇	六三六

子産卵能力

産卵ノ能力ニ關シテハ其全般ニ亘ルモノハ前記産卵調査ニヨリ成績ヲ示セシモ本年度ノ最高記録ヲ現ハセル
大正十五年鶏單冠白色レクホーン種十五羽一羽ノ示セル成績左表ノ如シ

脚番	初産卵後滿一ケ年 産卵數	同上總重量	初産卵時ノ体重
赤一	一三〇	一、五九七	三七五
同二	二〇二	二、九七四	四七七
同四	三三二	三、一〇九、五	四二七
同五	二〇六	二、八九四、五	三九七
同六	二四六	三、六〇〇、五	四五〇
同十一	二〇五	二、七六八、五	四二七

種名	初産卵時一羽ノ 平均体重	一羽一ケ年平均 産卵數	一羽一ケ年平均 産卵一個ノ平均 重量	初産卵時一羽ノ 平均体重
同 一 二	二〇六	二四九	二、九三	三二〇
黄 七 八	二四五	三、六二、五	三、六二、五	三五〇
同 七 九	二三三	三、六三一、五	三、六三一、五	四一七
同 八 二	一七六	二、四九五、五	二、四九五、五	三六四
同 八 三	二二六	三、一〇、五	三、一〇、五	四〇五
同 九 〇	一七一	二、五四五	二、五四五	四四〇
同 九 一	二二二	三、一八四	三、一八四	四九〇
同 九 二	一八五	二、七二八	二、七二八	三七三
同 九 八	一五四	二、五五六、五	二、五五六、五	五一〇
計	三、〇二八	四三、八四〇、五	四三、八四〇、五	六、二七三
弱	二〇二	二、九三、七	二、九三、七	一
重	一	〇、〇二四、四八	〇、〇二四、四八	一

叙上ノ如ク總産卵數三千二十八個壹羽一ケ年平均産卵數二百二個弱ヲ示シ前年度ノ最高記録ヲ有セル十五羽

一群ノ現ハセル總産卵數三千三十一個一羽一ケ年平均産卵數二百二個強ニ比シ僅カニ遜色アリタリト雖全体ニ亘ル能力ノ向上セルヲ見ル將來益々寡産鶏ノ淘汰交配ノ方法、飼料配合調理ノ研究ヲナシ全種鶏ヲ二百卵以上ノ優秀鶏ノミニスル計畫ノ下ニ實施中ニアリ

第三章 飼養管理

一 飼 養

飼料ハ概ネ左ノ飼料例ニ據ルト雖動物本來ノ特性ニ從ヒ自然ヲ尊重シ且ツ經濟的飼養法ヲ主眼トシテ之ヲ行ヘリ即チ飼料トシテハ一般農家ノ用フルニ苦マサルモノヲ基準トシ且ツ濃厚飼料ハ可成的之ヲ除キ粗飼料ヲ主トシ以テ消化器管ノ發育健全ヲ促スコトニ注意セリ給與其他ニ就テハ一般法則ニ從ヒ季節營養狀態並用途別ニヨルノ外發育中ノモノニアリテハ其程度ニ從テ參酌シ適量ヲ給セリ給與ノ時間ハ夏季ハ午前五時正午午後六時トナシ冬季ハ午前七時正午午後五時ノ三回ニ分與シ苜蓿草ハ夕餉後幾分多量ヲ給與セリ給水ハ畜牛ニアリテハ食前之ヲ行ヒ種豚種鶏ニアリテハ終日容器ニ滿タシテ飲スカ儘ニ給飲セシメタリト雖モ夕餉後ハ取除キ翌朝更ニ新鮮ナルモノヲ與ヘタリ

濃厚飼料ハ青刈大豆又ハ乾草ヲ約二寸ニ截斷シテ之ヲ混淆攪拌シ大豆粕ハ豫メ水ニ浸漬シテ軟化セシメ殼實ハ挽割トシテ給セリ根菜類ハ切斷シテ與フルコト、セリ豚ニアリテハ夏季ハ水冬季ハ微温湯ヲ以テ攪拌粥狀トナシ生牧草、青菜ノ類ハ其儘給與セリ

種鶏ハ季節ニヨリ異ルト雖概ネ練餌トシテ支給シ夕刻就寢前ニ穀實ノ適量ヲ與フルコト、セリ各家畜家禽ニ就キ給與飼料ノ例ヲ舉クレバ左ノ如シ

イ 畜牛飼料例

夏季ノ部

種別	區分	數										
		米	糠	挽割大麥	大豆粕	生牧草	敷	藁	食	鹽	候補種牛	
種別	區分	六、〇 ^升	三、〇 ^升	二、〇 ^升	一、〇 ^升	二、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇
種別	區分	九、〇	一、五	四、五	一、二	一〇、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇
種別	區分	三、〇	一、五	一、五	〇、六	六、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

冬季ノ部

種別	區分	數										
		米	糠	挽割大麥	大豆粕	青刈大豆	燕青	乾草	敷	藁	食	鹽
種別	區分	七、五 ^升	三、〇 ^升	三、〇 ^升	一、〇 ^升	〇、六〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、五〇〇	七、五〇〇
種別	區分	九、〇	一、五	六、〇	一、五	〇、六〇〇	四、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	九、〇〇〇
種別	區分	四、五	一、五	一、五	〇、六	〇、三〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	四、五〇〇

ロ 犢人工哺乳

當場生産犢ハ凡テ人工哺乳ヲ行フコトトシ其量及哺乳回數ハ概ネ左表ニ據レリト雖モ性及發育狀態ニヨリ幾分斟酌スルコトトセリ而シテ生後四、五週日ヨリ食ニ慣ラシ哺乳ノ傍ラ濃厚飼料ノ少量ト苜蓿草ヲ支給シ成育ト共ニ順次其量ヲ増加セリ

生後日數	全乳量	渣乳量	給與回數
自初日至七日	九封度乃至十封度		五回

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
百三十六日	百十五日	百一十五日	百七十五日	百六十四日	百五十一日	百四十一日	百二十九日	百二十八日	百二十一日	百十五日	百八日
				每日一封度ツ、減	十四封度	十六封度	十七封度	十六封度乃至十七封度	十四封度乃至十五封度	十一封度乃至十三封度	
					二封度	一封度					
每日一封度ツ、減	十五封度	十六封度	每日一封度ツ、増								
二回	三回	三回	三回	三回	三回	三回	三回	四回	四回	四回	四回

八種豚飼料例

種別	區別	穀	米	糠	高粱	粃	大豆粕	醬油粕	荳科生牧草	食鹽
種牝豚	一升五合	二升	三合	三合	三百匁	二貫四百匁	六匁			
種牝豚	一升五合	二升	三合	三合	三百匁	二貫四百匁	六匁			
種牝豚	一升五合	二升	三合	三合	三百匁	二貫四百匁	六匁			

備考 前表ノ外牛骨粉ノ少量或ハ角頭ノ少許ヲ混與シ尙冬季ハ生牧草ニ替ルニ蕪菁一貫五百匁ヲ給シ又
 体重、妊否分娩等ニヨリ夫々加減セリ

二種鶏飼料例

種別	穀	米	糠	高粱	粃	大豆粕	大麥	鯨粕	青菜	貝殼
單冠白色種	六匁	四匁	一匁	八匁	六匁	二匁	三匁	三匁	二匁	若干
名古屋種	六匁	四匁	一匁	八匁	六匁	二匁	三匁	三匁	二匁	若干
橫斑ブリマス種	七匁	四匁	一匁	八匁	六匁	二匁	三匁	三匁	二匁	若干

備考 産卵並季節、健康狀態等ヲ考慮シ混合ノ割合及其量ヲ加減セリ
 本 飼料ノ購買及消費

品目	消費量	購入金	高
穀 一袋九十斤入	二七七袋	一、〇九六、五五〇	
米 糠	四、二〇六、〇〇〇	七〇、〇一〇	
小 米	八、九〇三	二八、七〇〇	
大 豆 粕	九〇〇、〇〇〇	三三、七五〇	
高 粱	五五八、二〇〇	一五、七〇〇	

第四章 乳肉加工試験

一 乳加工
 犢育成ノタメ使用セシ殘餘ノ乳ハ一部生乳ノ儘之レヲ拂下ケ一部ハ「バター」ノ製造及試験ニ供セリ年度内ニ於テ供用セシ牛乳及生産「バター」ノ量左ノ如シ

全乳量 一五、五三四磅八

バター量 四七七、五

バター一磅生産ニ要セシ全乳量 三二、五強

渣乳及「バタミルク」ハ犢、仔豚、雛ノ飼料トシテ給與セリ

二 肉加工

肉ノ加工ハ一、二月ノ間ニ於テ行ヘリ供試豚及加工品ノ數量等左ノ如シ

供用豚三頭 生体量八拾貫

放血後体量 七十五貫 供用肉量 三十一貫七百三十匁

製品漬肉 二貫三百五十匁 腸詰 二十六貫三百三十匁

第五章 飼料作物ノ栽培

本年度ノ飼料作物ノ延作付反別ハ二町八反歩ニシテ外一町三反一畝七歩ハ牧草栽培地トセリ
 飼料作物ハ粗飼料ノ自給自足及栽培試験ノ目的ヲ以テ栽培セリト雖耕地稍狭小ナルカ故ニ耕作牧草ノミニテハ常ニ不足ヲ告ケ野草ヲ以テ補足スルノ狀況ニアリ栽培作物ハ表作ハ主トシテ青刈用大豆ニシテ其他少許ノ採種用大豆及埋草用玉蜀黍裏作ハ蕪菁育雛用蕪菁ヲ栽培セリ肥料ハ一切家畜ノ糞尿ヲ用ヒ尙作物發育ノ狀況ニヨリ各家畜ノ糞尿ヲ混用シ堆肥トナシテ施用シ或ハ單用スル等施肥期ニ依リテ各肥料ノ持効ヲ利用シ金肥ハ殆ト施用セス

一 飼料作物栽培成績表

區分	反別	播種月日	反當リ種子量	反當リ施肥量	收穫月日	反當リ收穫量	總收穫量
青刈用大豆	一町一反歩	自四月二十日 至五月四日	五升 (摘播)		自七月九日 至八月十七日	乾 100 乾 100	100 乾 1,100
採種用大豆	一反歩	六月五日	三升 (摘播)		十月三十日	100	100
蕪菁	一町三反歩	自八月十七日 至九月八日	七合 (條播)	五〇貫堆肥 三〇荷(牛尿)	自十一月廿一日 至翌三月廿四日	1,100	1,100
埋草用玉蜀黍	二反歩	四月廿三日	八升 (條播)	五〇貫堆肥 (床播) 三〇荷(牛尿)	自八月八日 至八月廿四日	1,100	1,100
育雛蕪菁	一反歩		四合 (床播)	三〇荷(牛尿)		300	300

備考 青刈大豆及埋草用玉蜀黍ハ播種後野鼠ノ害ヲ蒙リ補播セシモ約二割ノ減收ヲ見タリ
 採種用大豆ハ作付一反歩ナレトモ内不毛作地約二畝歩アルカ故ニ約二割減少セリ

二 牧草收穫表

牧草名	區分	栽培面積	一番刈				二番刈				三番刈				四番刈				全總收穫量	反當收穫量
			坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量	坪當總量			
オーチャード	グ	三反九畝	三、五	四、〇九五	一、〇	一、七〇	〇、八	九三六	〇、八	九二六	〇、七	一、三三七	〇、八	一、八三〇	〇	〇	〇	〇		
オーチャード	ラ	四反五畝	三、〇	三、九四	〇、七	九五、六	〇、六	七八四	八											
オーチャード	ス	十八歩	二、八	七〇、〇	一、〇	二五〇、〇	〇、八	二〇〇、〇	〇、七	一七五、〇	一、三五	〇、一	五九〇、〇	〇	〇	〇	〇	〇		
ス赤クロバ	ミ	八畝十歩	二、八	七〇、〇	一、〇	二五〇、〇	〇、八	二〇〇、〇	〇、七	一七五、〇	一、三五	〇、一	五九〇、〇	〇	〇	〇	〇	〇		

赤クロバ 三反八畝 三、二、三、五、九、九、二、〇、二、二、九、〇、一、五、一、七、三、五、一、二、三、三、六、八、八、九、六、二、三、三、四、〇、〇、九、步

備考「オーチャードグラス」「チモシーグラス」ハ條播トシ他ハ撒播セリ

三 飼料作物栽培努力調査表

各種飼料作物ノ栽培ニ要セシ作業人員並所要經費ヲ示セバ次ノ如シ

イ 青刈用大豆 (作付反別一町一反步)

作業別	作業期間	作業延日數	所要延人員		賃金	摘	要
			男	女			
畦立	自四月十日 至四月廿五日	八日	二〇、〇	一	二六、〇〇〇		
播種	自四月廿日 至五月四日	七	三、〇	一五、〇	二、九〇〇		
補播	自五月十日 至五月廿八日	二	一	二、五	一、五〇〇		
除草	自六月五日 至六月十九日	一六	二六、五	四、五	三七、一五〇		
土寄	自六月十五日 至七月九日	一	一、〇	一	一、三〇〇		試験的ニ一部ノ土寄ヲ試ミタリ
刈取	自七月廿九日 至八月九日	六	二一、〇	一	一五、六〇〇		
乾燥及收納作業	自八月二日 至八月十七日	二	二、五	一	二九、二五〇		
計		五二	八五、〇	三三、〇	一三三、七〇〇		

ロ 玉蜀黍 (埋草用青刈)(作付反別二反步)

作業別	作業期間	作業延日數	所要延人員		賃金	摘	要
			男	女			
牛耕	四月五日	一、〇	二、〇	一	二、六〇〇		
畦立	四月廿一日	一、〇	五、〇	一	六、五〇〇		基肥ノ施肥ヲモ行ハシメタリ
播種	四月廿三日	一、〇	一	二、〇	一、二〇〇		
補植	五月十七日	一、〇	一	〇、五	〇、三〇〇		
除草	六月七日 七月十五日	一、五	一	一、五	〇、九〇〇		
施肥	六月三日	〇、五	〇、五	一	〇、六五〇		
土寄	六月十七日 六月十八日	一、五	一、五	一	一、九五〇		
刈取	自八月八日 至八月廿四日	二、〇	三、〇	一	三、九〇〇		
根堀	八月十四日 八月廿五日	二、〇	三、〇	一	三、九〇〇		
計		二一、五	二五、〇	四、〇	二二、九〇〇		

ハ 蕪菁 (作付反別一町三反步)

播種準備作業	作業期間	作業延日數	所要人員		賃金	摘	要
			男	女			
至自八月十一日 至九月四日	四、〇	二、〇	一	一	一五、六〇〇		

牛耕	播種	第一回間引	第二回間引	第一回追肥	第二回追肥	第三回追肥	引及除草	葉切	計	反當所要人員		同上賃金	勞賃ニ對スル飼料作物ノ單價
										男	女		
自八月十二日 至九月五日	自八月十七日 至九月八日	自九月十日 至十月四日	自十月七日 至十月廿五日	自九月廿二日 至十月四日	自十月廿二日 至十月廿三日	自十月廿六日 至十一月廿六日	自十一月廿一日 至十二月廿四日	自十一月廿一日 至十二月廿二日	六四、〇	一五七、五	一三三、五	二七二、八五〇	一石ニ付 八、〇〇〇
一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	七二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四三、〇〇〇	二五、〇〇〇	一五、〇〇〇	九、七五〇	九、七五〇	二六、〇〇〇	一	二六、〇〇〇	基肥ノ施肥整地ヲモ含ム	
二、〇〇〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一	七、二〇〇	一〇貫ニ付	
一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	七二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四三、〇〇〇	二五、〇〇〇	一五、〇〇〇	九、七五〇	九、七五〇	二六、〇〇〇	一	二六、〇〇〇	一〇貫ニ付	
二、〇〇〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一	七、二〇〇	一〇貫ニ付	
一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	七二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四三、〇〇〇	二五、〇〇〇	一五、〇〇〇	九、七五〇	九、七五〇	二六、〇〇〇	一	二六、〇〇〇	一〇貫ニ付	
二、〇〇〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一	七、二〇〇	一〇貫ニ付	
一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	七二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四三、〇〇〇	二五、〇〇〇	一五、〇〇〇	九、七五〇	九、七五〇	二六、〇〇〇	一	二六、〇〇〇	一〇貫ニ付	

四 飼料作物耕作反當所要人員表

種別	反當所要人員		同上賃金	勞賃ニ對スル飼料作物ノ單價
	男	女		
青刈用大豆	六、五三	一、八	二、二四五	一〇貫ニ付 一、二三五
播種用大豆	五、〇〇	二、五〇	八、〇〇〇	一石ニ付 八、〇〇〇

備考 男人夫傭入賃金一日金一圓三十錢 女一日金六十錢

策六章 指導獎勵

一 質疑應答講習講話

講習講話ハ主催者ノ申請ニヨリ場員出張之レニ當リ今立、坂井、敦賀、三方、南條、遠敷ノ各郡ニ於テ九回十五日間行ヘリ質疑及實地指導ハ懇切丁寧ヲ旨トシ應答ニ從事セリ

蕪菁	二、三、二	八、七三	二〇、七二	一〇貫ニ付	〇、一八
埋草用玉蜀黍	七、五〇	二、〇〇	一〇、九五〇	青刈 一〇貫ニ付	〇、〇九
育雛用芸苔	四、五〇	二、五〇	七、三五〇	同 一〇貫ニ付	〇、二四五

附

錄

第五條 主事補ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ關スル事務ニ從事ス
第六條 本場ノ業務執行ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四四

福井縣立種畜場處務規程

- 第一條 場長ハ事務處理ノ爲經伺ノ上場中處務細則ヲ設クルコトヲ得
第二條 場長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得
一、職員ノ配置及事務分掌ニ關スルコト
二、職員ノ歸省看護墓參及轉地療養願ヲ許可シ又ハ除服出務ヲ命スルコト
三、職員ノ縣内出張ヲ命スルコト
四、豫算定額内ニ於テ雇員以下ヲ採用解免スルコト
五、其他輕易ナルコト
第三條 場長ハ職員ノ進退功過ヲ知事ニ具申スルコトヲ得 但シ雇員以下ノ功過ニ付テハ經伺ノ上賞與又ハ懲戒ヲ行フモノトス
第四條 場長事故アルトキハ上席按手其事務ヲ代理スヘシ
第五條 場長ハ其ノ主管事務ニ付官公署其他ト照會往復ヲナスコトヲ得
第六條 場長縣外ニ出張セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ職員ヲ縣外ニ出張セシメムトスルトキ亦同シ
事急ニシテ前項ノ手續ヲ經ル暇ナキトキハ其ノ事由ヲ開申スヘシ

- 第七條 場長ハ毎年二月末日迄ニ翌年度試驗調査ノ設計及事業計劃ヲ立テ知事ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ設計又ハ計劃ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
第八條 試驗及調査ノ成績ハ其結了ノ都度事務及業務功程報告書ハ年度終了後一箇月内ニ場長ヨリ知事ニ提出スヘシ

福井縣立種畜場處務細則

第一章 事務分掌

- 第一條 本場ニ左ノ係ヲ置ク
一、業務係
二、庶務係
第二條 各係ノ分掌事項左ノ如シ
業務係
一、種畜種禽蕃殖並ニ育成ニ關スル事項
二、種畜種禽及種卵ノ貸付又ハ配付ニ關スル事項
三、種付受託育成ニ關スル事項
四、家畜家禽ノ改良蕃殖及育雛試驗ニ關スル事項
五、家畜家禽ノ肥臘法及乳牛能力試驗ニ關スル事項
六、乳製品及肉製品ノ試驗ニ關スル事項
七、家畜家禽ノ飼料試驗ニ關スル事項
八、家畜家禽ノ衛生及畜舎ノ整理ニ關スル事項

四五

- 九、耕作ニ關スル事項
 - 一〇、畜産ニ關スル講習講話及質疑應答ニ關スル事項
 - 一一、練習生ノ養成ニ關スル事項
 - 一二、畜産上特ニ必要ト認メタル事項
- 庶務係
- 一、場長印及場印保管ニ關スル事項
 - 二、職員備員練習生ノ身分進退服務ニ關スル事項
 - 三、機密ニ關スル事項
 - 四、場内取締ニ關スル事項
 - 五、文書物品ノ收受整理保存ニ關スル事項
 - 六、物品購入、生産物並不用品處分ニ關スル事項
 - 七、經費豫算ニ關スル事項
 - 八、財産管理ニ關スル事項
 - 九、會計整理ニ關スル事項
 - 一〇、他係ニ屬セサル事項

第二章 處務順序

- 第三條 本場ニ到達シタル公文書ハ庶務係ニ於テ之ヲ收受シ文書件名簿ニ記載ノ上場長ノ檢印ヲ受ケ主任者ニ交付スルモノトス 但シ親展ノ表記アルモノハ其ノ旨記載シ受信者ニ交付スヘシ
- 第四條 機密文書ハ場長ノ指揮ニ依リ處理スヘシ
- 第五條 事務ハ凡テ場長ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス 但シ輕易ナルモノハ首席者若ハ主任者ニ委任スルコトアルヘシ

- 第六條 主任者擔任事務ヲ處理シタル時ハ係員ニ合議ノ上場長ノ決裁ヲ請フヘシ 但シ場長ノ不任ノ場合ハ主任者其ノ代決ヲ爲シ重要事項ハ場長ノ後閱ヲ受クヘシ
- 第七條 生産物ハ其ノ都度數量ヲ一定ノ帳簿ニ記入シ場長ノ檢印ヲ受クヘシ其ノ賣却又ハ配布スヘキモノ亦同シ
- 第八條 文書ノ決裁ヲ得タル時ニハ直ニ庶務係ニ交付シ庶務係ハ之ヲ淨書シ文書件名簿ニ記入シテ發送スヘシ
- 第九條 本場發送文書ハ畜發第何號受文書ニハ畜收第何號ト記入スヘシ
- 第十條 完結シタル文書ハ左ノ二類ニ分チ主任者ニ於テ之ヲ整理シ後日ノ參考ニ便ナラシムヘシ
 - 第一類 永年
 - 第二類 三ヶ年
- 第十一條 文書ノ編纂ハ曆年會計ニ關スル文書ハ會計年度ニ依リ更新スルモノトス

第三章 服務心得

- 第十二條 職員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第十三條 職員疾病又ハ事故アリテ出勤シ能ハサル時ハ其ノ事由ヲ記シテ出勤時間迄ニ届出スヘシ若シ疾病ノ爲メ缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出スヘシ
- 第十四條 職員出務時間中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ外出セムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十五條 忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族死亡ノ月日及續柄ヲ記シテ届出スヘシ
- 第十六條 父母ノ墓參病氣看護若クハ轉地療養ノ爲他行セムトスルトキハ其ノ期間及行先地ヲ明記シテ其ノ

事由ヲ具シ場長ニ願出許可ヲ受クヘシ轉地療養ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十七條 休暇ヲ受ケムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ

休日又ハ執務時間外ニ於テ任地ヲ離レムトスルトキハ其ノ行先ヲ明記シ届出スヘシ

賜暇中旅行セムトスルトキハ其ノ旅行日數出發歸廳ノ期日及行先地ヲ明記シ届出ツヘシ

第十八條 職員出張シタル時ハ歸場後五日以内ニ復命スヘシ、但シ事ノ輕易ニ屬スルモノハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十九條 職員ハ事務ノ繁閑ニ依リ相互補助スヘシ

第二十條 職員退出ノ時ハ諸文書ヲ收藏シ所管ノ重要書類ハ宿直員ニ附託スヘシ

第四章 當直心得

第廿一條 當直ヲ分チテ宿直及日直トス

當直ハ技手又ハ主事補一名ヅ、交替勤務スヘシ

第廿二條 宿直時間ハ勤務時間終了後ヨリ翌日執務時間ノ開始ニ到ル迄トス日直ハ勤務時間限リトス

第廿三條 當直中到達シタル文書又ハ物品ハ當直簿ニ記入シ次ノ當直員又ハ庶務係ニ引繼クヘシ、但シ個人又ハ親展ヲ除ク外披見シ至急ト認ムルモノ若クハ電報ハ直チニ主任者ニ通報シ處分スヘシ

第廿四條 當直員ハ時々場内ヲ巡視シテ其ノ取締ヲ爲シ參觀者ノ案内ノ任ニ當ルヘシ

第廿五條 當直ニ缺勤者アルトキハ逐時次番ヲ以テ勤務シ缺勤者ハ隨時償勤スヘシ

左ノ場合ニ於テハ當直ヲ免除ス

一、新任者ハ就職ノ日ヨリ五日間

二、出張員ハ其ノ前日ヨリ歸場ノ當日迄

第廿六條 場内又ハ附近ニ出火其ノ他非常ノ事故アリタル時ハ當直員ハ直チニ場長及場員ニ急報シ臨機ノ處

置ヲ爲スヘシ

第廿七條 本則ニ規定ナキモノハ福井縣廳中處務細則ヲ準用ス

種豚種禽種卵拂下規程

第一條 豚又ハ家禽ノ改良蕃殖ヲ爲スノ目的ヲ以テ種豚種禽又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記様式

ニ依リ縣立種畜場長ニ出願スヘシ

第二條 拂下クヘキ種豚種禽及種卵ノ種類並ニ其ノ代價ハ知事之ヲ定メ告示ス

第三條 種畜場長拂下ヲ許可シタルトキハ種豚種禽又ハ種卵ノ種類、性、生年月日、數量、代價、代金納

付期限引渡期限ヲ指定シ之ヲ出願者ニ通知スヘシ

第四條 出願者前條ノ指定期限ニ代金ヲ納付セス若ハ物品引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ効力ヲ

失フモノトス

第五條 拂受人ハ拂下ノ許可ヲ受ケタル物品ノ輸送ヲ請求スルコトヲ得 但シ輸送ニ要スル荷造費及運送

費ハ拂受者ノ負擔トス

輸送中ニ生シタル損害ニ付テハ縣ハ其ノ責ニ任セス

第六條 拂下ヲ許可シタル物品ニシテ斃死廢疾其ノ他ノ事由ニ依リ引渡不能ニ至リタルトキハ種畜場長ハ

拂下ノ許可ヲ取消スヘシ

前項ノ場合ニ於テ既ニ納付シタル代金アルトキハ之ヲ返還スヘシ

第七條 拂受人ハ拂下物品ニ付如何ナル事由アルモ拂下ノ取消代金ノ返還若ハ減額又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 拂下種豚ノ血統書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ種畜場長ニ請求スヘシ
 第九條 拂受人ハ種豚ニアリテハ拂下期日ヨリ貳箇年種禽ニ在リテハ壹箇年飼育スヘシ
 第十條 拂受人前條ノ期間内ニ於テ、種豚、種禽ヲ賣買讓渡セムトスルトキハ其ノ事由及相手方ノ住所氏名ヲ具シ種畜場長ノ承認ヲ受クヘシ

斃死若クハ亡失シタル時又ハ已ムヲ得サル事由ニ依リ屠殺シタルトキハ拾日以内ニ種畜場長ニ届出ツヘシ

第十一條 拂受人ハ第九條ノ期間内ニ於ケル種豚種禽ノ飼育蕃殖ノ狀況ハ翌年一月末日限り種卵ノ孵化成績ハ其都度種畜場長ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式

種 豚(種禽、種卵) 拂 下 願

一、何種牝(雌)又ハ牡(雄)何頭(何羽又ハ何個)

右種豚種禽種卵拂下規定ヲ遵守可致候條御拂下相成度此段相願候也

年 月 日

住 所 氏 名 印

福井縣立種畜場長宛

福井縣告示第七十八號

縣立種畜場ニ於テ拂下クヘキ種豚種禽種卵ノ種類並ニ其ノ代價左ノ通相定ム

大正十三年三月六日

一、種豚ヨークシャ種パークシヤ種

イ、生後六十日ヨリ百五十日マデノモノ

一頭ニ付金五圓以上金貳拾五圓以下

ロ、生後百五十一日以上ノモノ

一頭ニ付金拾五圓以上金八拾圓以下

一、種鶏白色レグホーン種横斑ブリマウスロツク種及名古屋種

イ、孵化後百日マデノモノ

一羽ニ付金拾五錢以上金貳圓五拾錢以下

ロ、孵化後百一日以上ノモノ

一羽ニ付金五拾錢以上七圓以下

一、種卵白色レグホーン種横斑ブリマウスロツク種及名古屋種

一箇ニ付金拾錢以上金貳拾錢以下

種 牡 牛 種 付 規 程

第一條 本規程ハ國有貸付種牡牛及縣立種畜場ニ於テ飼育スル種牡牛ノ種付ニ之ヲ適用ス

第二條 種付ヲ受クヘキ牝牛ノ資格左ノ如シ

一、体格優良體質強健性質善良ナルモノ

- 二、年輪滿十八ヶ月以上
- 三、体高四尺以上
- 四、遺傳性及傳染性疾病ナキモノ
- 第三條 種付ハ當該種牡牛ノ飼育場所ニ於テ毎日一回午前八時ヨリ日沒時迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ但シ止ヲ得ス二回行フ場合ハ少クトモ六時間ノ間隔ヲ置クモノトス
- 第四條 種付希望者ハ第一號様式ノ申込書ヲ種付ノ當日種牡牛ノ管理者ニ差出シ種付ヲ受ケムトスル牝牛ヲ種付場所ニ牽付クヘシ
- 第五條 不受胎ニ因ル次回以降ノ種付希望者ハ前項ノ申込書ニ前回交付ヲ受ケタル受付證ヲ添付スヘシ
- 第六條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ納入告知書ニ依リ所定ノ種付料ヲ納付スヘシ但シ受胎セサルカ爲當初種付日ヨリ七十日以内ニ更ニ種付ヲ爲シタル場合ハ之ヲ徵收セス
- 第七條 不受胎其他事由ノ如何ニ拘ハラズ既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス
- 第八條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第九條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス
- 第十條 種付ヲ爲シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス
- 第十一條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第十二條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス
- 第十三條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第十四條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス
- 第十五條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第十六條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス
- 第十七條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第十八條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス
- 第十九條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス
- 第二十條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スル事ヲ得ス

十日以内ニ種付當時ノ種牡牛管理者ニ届出ツヘシ第一號ノ場合ニ在リテハ分娩ノ場所月日性毛色及特徵ヲ記載スヘシ

- 一、分娩シタル時
- 二、分娩前斃死シタル時
- 三、流産シタルトキ
- 四、分娩前賣却譲與又ハ交換シタルトキ

第十一條 血統書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ノ請求書ニ種付書ヲ添へ種付當日ノ管理者ニ提出スヘシ但シ第十條第一號ノ手續ヲ爲シタル者ニ對シテハ血統書ヲ下付ス

第十二條 種付シタル牝牛及生産セシ牝牛ニ對シテハ検査ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ検査場所ハ其ノ都度管理者之ヲ定ム

(第一號様式)

申込書

名	稱	種	類	生	年	月	体	高	毛	色	及	特	備	考

右種付致度ニ付御許可相成度種付料ハ御指定ノ期日ニ納付致可候也

住 所

所有者又ハ管理者

年 月 日 宛

(第二號樣式)

血統書下付請求書

五四

名 號	性	生年月日	毛色特徴	生産ノ場所	母牛血統
-----	---	------	------	-------	------

右ハ國有(縣有)何々號ノ種付ニ依リ生産シタル者ニ付血統書御下付相成度種付證相添ヘ請求條也

年 月 日

住 所

所有者又ハ管理者 氏 名

宛

備 員 心 得

- 第一條 備員ハ職員ノ指揮ヲ受ケ懇切丁寧ヲ旨トシ業務ニ従事スヘシ
- 第二條 備員ハ業務殆業時間二十分前ニ出勤シ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第三條 備員ハ業務ノ繁閑ニヨリ互ニ相補ケ現員交代ニ宿直スヘシ
- 第四條 備員ハ日曜祭日ト雖モ欠勤スルコトヲ得ス但シ業務ニ差支ナキ限りハ各員ニ對シテ毎月一日隨時指定シテ休暇ヲ與フルモノトス
- 第五條 疾病忌引又ハ事故ノ爲缺勤セムトスルトキハ届出ツヘシ疾病ノ爲缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ノ添付ヲ要ス 但シ事故ノ爲缺勤セムトスルトキハ豫メ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 備員ハ各自取扱器具機械ヲ丁寧ニ扱ヒ常ニ清淨ナラシメ毀損亡失シタルトキハ其ノ旨係員ニ報告シ指揮ヲ俟ツヘシ
- 第七條 牧手ハ家畜家禽ノ飼養管理ニ注意シ非常事變及動物ニ異常アルヲ認メタルトキハ直ニ係員ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ 但シ急ヲ要スル場合ハ便宜應急處置ヲ施シ直ニ係員ニ報告スヘシ
- 第八條 農手ハ耕耘及收穫物ノ保存農事ニ關スル一切ニ注意スヘシ
- 第九條 小使ハ場内ノ用ヲ辨シ職員退出後ハ事務所内外ヲ掃除シ戸締火氣等ニ注意スヘシ
- 第十條 宿直ノ際ハ場内外及畜舎ヲ巡視シ戸締火氣及ヒ家畜家禽ノ状態ニ注意シ苟モ異常ヲ認ムルニ於テハ其旨係員ニ急報スヘシ
- 第十一條 備員ハ執務時間外ト雖モ場又ハ附近ニ變災アルトキハ速ニ出場スヘシ
- 第十二條 牧手農手ハ就業時間左ノ如シ
但シ場務ノ都合ニ依リテハ幾分ヲ伸縮スルコトアルヘシ

五五

一、牧手就業及休憩時間表

月別	作業時間	朝食及休憩時間	作業時間	晝食及休憩時間	作業時間	晝食及休憩時間	作業時間
自一月一日至三月十五日	自午前七時卅分至同八時卅分	自午前八時卅分至同九時卅分	自午前九時卅分至同十時	自午後零時一分至同五時一分	自午後一時一分至同五時一分	自午後零時一分至同五時一分	自午後一時一分至同五時一分
自三月十六日至三月三十日	自同六時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
四月	自同六時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
五月	自同六時卅分至同七時	自同七時一分至同八時	自同八時一分至同九時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
六月	自同五時卅分至同七時	自同七時一分至同八時	自同八時一分至同九時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
七月	自同五時卅分至同七時	自同七時一分至同八時	自同八時一分至同九時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
八月	自同五時卅分至同七時	自同七時一分至同八時	自同八時一分至同九時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
九月	自同六時卅分至同七時	自同七時一分至同八時	自同八時一分至同九時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
十月	自同六時卅分至同七時	自同七時一分至同八時	自同八時一分至同九時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
十一月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
十二月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
一月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
二月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分
三月	自同七時卅分至同八時	自同八時一分至同九時	自同九時一分至同十時	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分	自同零時一分至同五時一分	自同一時一分至同五時一分

二、農手就業及休憩時間表

月別	始業時間	晝食及休憩時間	終業時間
四月	同七時	同上	六時
五月	同上	同上	同上
六月	同上	同上	同上
七月	同上	同上	同上
八月	同上	同上	同上
九月	同上	同上	同上
十月	同上	同上	同上
十一月	同七時三十分	同上	五時三十分
十二月	同八時	同上	五時

種牡牛馬表

一、縣有種牡牛

名	號	種類	生年月日	產地	飼養者
第二十八サージュヨハナ	ホルスタイン種	大正十二年八月一日	北海道	福井縣立種畜場	
サージュヨハナ	同上	同十年五月	同上	足羽郡畜産組合	
第三十七	同上	同十一年十二月廿六日	岩手縣	南條郡畜産組合	
サージュヨハナ	同上	同九年十一月	北海道	遠敷郡畜産組合	

昭和三年九月十日印刷
昭和三年九月十五日發行

福井縣立種畜場

福井市城町三ノ丸五番地
印刷人 河合仁太郎

福井市城町三ノ丸五番地
印刷所 河合印刷所

42
574

終